

# 全教員参加型 FD の運営とその効果

稲葉めぐみ, 佐竹美智子, 森浩一, 中村洋一, 阿部帥  
(茨城県立医療大学)

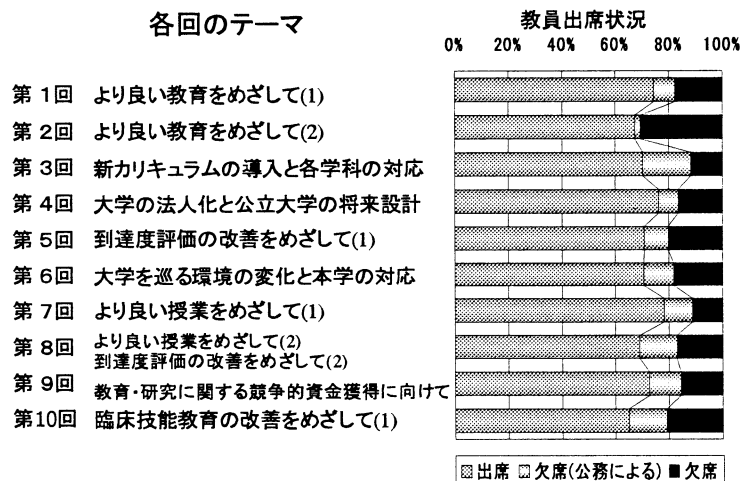
## 1. 研究の背景と目的

大学が教育の質を保証するためには、カリキュラムを実施・展開する教員の資質開発は欠かすことができない。このことから近年我が国では急速に FD 活動が広がりを見せた。しかしながら、大学単位での進展とは対照的に、個々の教員単位では組織的な FD は十分受け入れられていないように見受けられる。平成 14 年度の調査では、66.7%の大学が「FD を実施している」と回答しており<sup>1)</sup>、その翌年の全国の大学教員を対象とした調査では、担当授業の改善や活性化が「必要である」・「ある程度必要である」と回答した教員が全体の 92.2%にのぼった<sup>2)</sup>。しかしながら、同調査において過去 5 年間に実際に「全学レベルのセミナー・研修会に参加したことがある」と回答した教員は 28.1%であり、「学部レベルのセミナー・研修会に参加したことがある」と回答した教員はさらに少なく 23.6%にしか過ぎなかった。これらの数値が各大学の組織的な FD 活動の現状を示しているのではないだろうか。つまり、各大学においては、ほとんどの教員が授業の改善や活性化の必要性を認めているが、大部分の教員は全学レベル、学部レベルの FD 研修会には参加していないのである。大部分の教員は組織的な FD 活動である全学あるいは学部単位のセミナー・研修会は、あたかも教育改善には効果が無いと考えているようである。果たしてそれは真実なのであろうか？ そこで本研究では、茨城県立医療大学（以下 IPU）における「全学 FD 研修会」を基点として、全教員参加型 FD の教育の質的向上への有効性を検証し、組織的な FD の運営について考えることを目的とする。

## 2. 全学 FD 研修会

IPU では、「全学 FD 研修会」を軸とした全教員参加型の FD に取り組んでいる<sup>3)</sup>。「全学 FD 研修会」は、学務委員長（テーマによっては学長）主催で、2001 年度より年間 2～3 回の頻度で実施している。各回のテーマに沿って全学の教育改革進展状況の報告や、学外の専門家による招聘講演などを行い、2004 年 10 月までに 10 回の研修会を実施した。FD 研修会の毎回の出席率は全学教員の 7～8 割と前述の調査と比べて高く（図 1）、2004 年度のアンケートでは参加教員の 96.1%が研修内容について「参考になった」と回答している。

FD 研修会の前後の教員の意識の変化および教授行動の変化を、教員アンケートおよび全学



共同利用施設である教育推進室において一元的に管理される教育関連データにより検証したところ、これらには明瞭な変化が認められた。

### 3. FD 研修会の効果

第8回研修会は、「到達度評価の向上をめざして」をテーマとして2004年3月30日に実施された。研修会では形成的評価の重要性と学期途中における中間評価の有効性についての講演が行われた。この研修会における教員アンケートの結果(図2)では、研修会前に「到達度の中間評価をしていた」と回答した教員は39.4%であったのに対し、研修会後に「中間評価をする」と回答した教員は67.6%であり、「できれば中間評価をする」を含めると85.2%の教員が中間評価を行うと回答した。このことから、研修会により教員の意識には大きな変化があったことが確認された。

さらに科目責任教員より提出された教育評価に関する資料から、教授行動の変化も確認された。研修会前の2003年度前期においては、中間評価を実施した科目は全体の57.0%であったのに対し、研修会後の2004年度前期にはこれが70.5%に増加した(表1)。

「全学FD研修会」を軸とした全教員参加型FDが、教員の教授行動に変化をもたらしたことにより、授業が変わり、さらに学生の学習行動にも変化をもたらした。授業の出席率が79.6%(2001年度)から84.0%(2003年度)に向上し、図書館の利用状況にも変化がみられ、授業満足度も向上した(紙面の都合上、データは発表当日公開)。

設問：あなたは到達度の中間評価を…

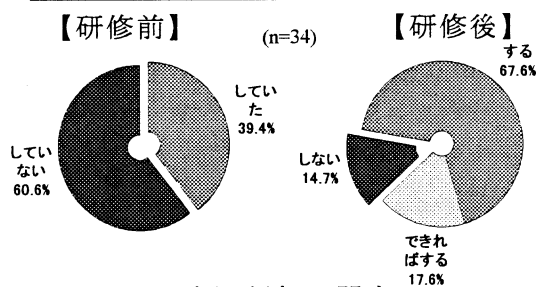


図2. 中間評価に関する教員アンケートの結果

表1. 到達度評価の方法の変化

		2003年度前期		2004年度前期	
		科目数	全体に占める割合	科目数	全体に占める割合
全科目数*1		114	100.0%	95	100.0%
到達度評価	中間評価実施*2	65	57.0%	67	70.5%
	期末試験+平常点*3	13	11.4%	8	8.4%
	期末試験のみ	36	31.6%	20	21.0%

\*1: 学内教員担当の全開講科目を調査対象とした。  
 \*2: 中間評価の結果を総合評価に算入していない科目はこのカテゴリーに入れていない。  
 \*3: 平常点は到達度評価以外の評価を示す(例:出席率)。

### 4. 考察

本研究の結果から、IPUで実施した「全学FD研修会」は、教員の参加度が高く、全学的な教育の質的向上に有効であると考えられた。大学が組織として教育の質を保証するためには、そこで行なわれる全ての授業が質的に保証される必要がある。教育活動による教員の人事考査などがまだ一般的でない我が国において、このことが保証されるためには、教育に関与する全ての教員の教育活動の質的向上を図る必要がある。教育活動に熱心な教員だけが所謂「改革疲れ」陥らないためにも、FDは全教員が参加する組織的な活動となるよう運営されるべきであろう。

#### 参考資料

- 1) 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室：大学における教育内容等の改革状況について、文部科学省、2004
- 2) 広島大学高等教育研究センター編：FDの制度化に関する研究(2)－2003年度教員調査報告－、広島大学高等教育研究センター、2004
- 3) 稲葉めぐみ、佐竹美智子、中村洋一、窪田宜夫、前田和子、阿部帥：一元的な教育の管理運営システムによる教育改革の推進、医学教育、2003、34(5)：315-322